KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

本朝画

二

伊
972
A3

伊門
672
巻3

古史通巻之二

かくて素戔嗚神天に昇りて生しまを正勇猛なりと
吠ゆ。拒れども天照大神慍り給ひ根堅洲国に
まします。忌服屋に坐して神衣を
織らしめ給ふ。時に天の斑駒を逆剝ぎ
金織の小屋に投げ入れ給ふ。天衣織女これを見て驚き
刺て堕し給ふ。天照大神天石屋戸を閉て幽居給ふ。
高天原皆暗く葦原中国悉く闇くして常夜徒き
神の妖悪蠅なす満ち万物悉く妖こをくるふ。
諸神憂迷して天安の河原に神会に集ひ給ふ。
謝をもとめ方を議る。遂に大神を天の石屋より
引出すに及びて高天原葦原中国ものつどひ

明らむる事を以つて八百万神共に議りて責め科す
千曳置戸を神せ祓具を責て其罪を贖ハしめ遂に
神祓良比小祓良比きと此一節下の一節に通じて日本紀
注の一書に拠りて之を加へたるなり
天忌寸部が祖神と云ふ日本の竹田に奉ハる放樋埋溝
毀畔又重播し秋ハ刺串伏馬の類也放樋埋溝とハ水を導く溝也埋溝とハ美濃宇賀と云ふ水を通ずる
溝を土を以て塞ぐこと毀畔とハ畦を壊ること重播とハ麻を重ねて播く也刺串とハ田畔に刺す
杙也伏馬とハ馬を繋ぎ伏せ敷を踏しめたるを云ふ 慍恨とハ古事記に稲を
御田の畔を毀ち溝を埋らしなど地矢阿多良
斯岐許多為如此とハ大嘗祭に香す敷を屎麻
理物らさしなどは酔て吐散す許多為如此とハ
て也須米良と云ふ

簒疏に初て穀を嘗むる也冬時の穀を稱へ多と大嘗ハ後て抜保武
倍しふ神代巻に吐ハ後て多具理と云ふ飲食の物を吐き
ふすると忌服屋に旧事紀に齋服殿とハ
を織ると云ふ簒疏天班馬に鹿と云ふ簒疏
ると云ふ駁馬を以て逆剥とハ獣を敷
て後ふ天皮を剥ぐと云ふ簒疏○延喜式大祓の後段に云ふ放樋
放畔埋溝重播刺串屎戸生剥逆剥
罪を以つて天津罪と云ふ
思大神と云ふ天衣織女ハ旧事紀に天
以一説に織女稚日姫尊と云ふ
を傷て神を斎ふ也
妹也と云ふ簒疏に今按津国生田社に此神
を祭ると云ふ
天窟又ハ天磐戸等の字を用ひて河麻伎伊播

[illegible]

[illegible]

[illegible]

津麻羅を求めて石凝姥命を神とし後を継しむ

天金山其處所不詳天津麻羅又未詳此神の子孫なり旧事紀に初め天金山の鋼を採りて石凝姥命をして日像の鏡を鑄しめ又天糠戸神をして造らしむ

又曰く天糠戸神は思兼神の子なり

[illegible] 伊勢の崇敬大神宮の祠官なり

[illegible] 旧事紀に[illegible]

[illegible] 旧事紀の文を服[illegible]

[illegible] 又旧事紀に天糠戸神は石凝姥命の子なり

[illegible] 旧事紀の一書に古語拾遺に[illegible]

石凝姥命は天糠戸神の子なり

[illegible] 旧事紀に[illegible]

[illegible] 又旧事紀に伊勢[illegible]

[illegible] 又按ずるに天糠戸

玉祖命を祠せしめ尺

勾珠之五百津御須麻流を作らしむ

玉祖命は旧事紀に[illegible]

[illegible] 玉作部遠祖豊玉姓氏録に[illegible]

[illegible] 又以玉作連の祖[illegible]

玉命に言寄命[illegible]

[illegible] 八尺[illegible]

[illegible] 青玉を青[illegible]

[illegible] 又

曲玉を[illegible]て旧説[illegible]

私記に[illegible]須麻流とは美玉を[illegible]

[illegible] 玉飾の[illegible]

[illegible] 又古語拾遺に[illegible]

[illegible] 曲玉

赤玉の堺也しかば又八坂瓊[illegible]赤玉[illegible]

五百は数[illegible]伊[illegible]

助[illegible]

流の字を低用[illegible]

紀[illegible]統の字と同じ

天児屋命天太玉命

乃肩抜小内抜[illegible]天香山の天波婆の如き[illegible]

[illegible]

[illegible]

鹿の肩骨を全く抜き取りて彼骨を焼きて其骨を以て吉凶を卜する事は此神代の時の方すべて太玉命なりしかば其事を繁く思召されて児屋命に命ぜ
られし天香山の五百津真賢木を根許士尓許士て上枝に
玉を取かけ中枝に
八尺瓊の五百津御須麻流を取かけ中枝に
八尺勾珠の五百津御須麻流を取かけ下枝に白丹寸手青丹寸手を
取垂く

漢語抄に曰く賢木は榊なり榊名義抄に榊名に佐加木と訓ずと倭名抄に榊の字を用ゆ今俗に榊乃木と称す
五百津は五百枝なり多きを五百と云ふ文章院の学士菅原道真の心得なり
本紀に荒神国風土記に木の繁て枝多きを五百と云ふ又
根許士尓許士は山雷の神なりて根の字を用ゆ
根許士尓許士は古自乃波古自と清むなり
根の字を底と解して枝の字を底枝と云ふ
中枝に取かけたる玉は上枝に取かけたる玉祖神の作られし
石凝姥命の造られし
八尺瓊は旧事紀に八咫と云ふ
八咫は八尺と云ふて清て心阿多と云ふ由を注せり公望私記に
記に阿多と云ふは手の義なりと云ふ上古は今の多と云ふ如く阿と云ふ
尚ほ多し凡八枝は神代に尚ほ

天鈴四八咫鏡を八尋の殿に安置し奉りて事を問ひ給ふ天鈴は天鈴の神なり
小天鈴は天鈴の神なり
天鈴の神は天鈴を造りし人なり
天鈴の神は天鈴を造りし人なり
天鈴の神は天鈴を造りし人

迹而を示す御幣八十物を[illegible]神を祭りて夢くの事を[illegible]神を礼する[illegible]の贄し[illegible]を美武久良と
称し又[illegible]布刀詔戸言と[illegible]布刀詔戸言と[illegible]神を告る詞と旧事紀
古語拾遺[illegible]太玉命其門[illegible]祭[illegible]神を大神の神徳を称
讃奉られ[illegible]を児屋命相[illegible]天手力雄神を御戸の板を[illegible]
副て[illegible]

天手力男神

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]今も東國の俗に婦女の初めて[illegible]を浸入て[illegible]
[illegible]ふちいさき桶を[illegible]
[illegible]の俗を宇氣[illegible]
[illegible]志と[illegible]を[illegible]て踏[illegible]
憑りて和の[illegible]を[illegible]
[illegible]胸乳掛おて常[illegible]
[illegible]旧事紀に[illegible]
我伎して人の笑を催す[illegible]
乳をおき出して[illegible]
八百萬神のわらひ[illegible]
の[illegible]人長の[illegible]
恵良久と[illegible]
大神[illegible]事に[illegible]
開て[illegible]
て貴神[illegible]
太玉命[illegible]
[illegible]戸を開て窺[illegible]
[illegible]て引出[illegible]る太玉命尻久米縄を[illegible]て[illegible]

方に打渡し[illegible]の内に[illegible]
出[illegible]
[illegible]
手を伸て[illegible]
[illegible]志[illegible]
[illegible]尻久米縄[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
千座置戸に科[illegible]て八百萬神[illegible]
[illegible]を抜き[illegible]罪を贖ハしめて[illegible]

千座置戸に私記かゝるに元とゝ和を[illegible]
積[illegible]罪人を[illegible]て千座置戸とゝふこゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
後代の[illegible]八百万の[illegible]一束の稲を[illegible]
神世の道法[illegible]
四といふこゝ神[illegible]の[illegible]又世人惑し
[illegible]

素戔嗚神逐[illegible]
て笠蓑[illegible]て宿を[illegible]神に乞ふ拒まらせし
かば風雨[illegible]て休む事を[illegible]て辛苦
て降りの[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]命が相[illegible]ませられい紙が離れ
[illegible]ふ思ふ事[illegible]すこと[illegible]此紙ふまい上[illegible]のみ合い
[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ

の御繁うを陳い御繁に左右の御手をもの〳〵八尺勾
玉百五十箇乃御頸珠を纏い曾比良うを千入之敢
を負い比良に五百入之敢を附け太う武伎よ伊都
く作靭を負い手隊を振き堅庭を向股を
踏那豆美沸騰のごとく踏建り
御繁豆羅を沸て美久志と御繁豆羅と沸て美加
物ふようふ上世よい男子ハ髪を
飾るうのるうわけて結び
加豆良とうすべくいうれを縛角と
つよ結びく髪をさしてしろふ
也此剣よ大神の御繁をめ比
を結びく御繁とせれ御頸珠
千入とい是戎装のさたて
しを沸の際洋弟比良と
時い御身の側よつうれ
五百入というれ
ホ

也伊都ハ旧事紀ハ後威乃字を似用ひられき元上古の伝事物を記して湯
沸ふ伊都と沸伊都伊都と沸湯沸と沸伊都
で伊都のみうて
字を似用のうれ
上古の剣い
文神宝を送
良加須
四又敢果く男也男建沸で
理とふすべくふいうの
番せる毎とハ十拳ハ拳
弗とるされ

踏敢い沸で久志波良
踏裂て手を沸重
伊都く男建踏建るい伊都いるう
敢果と沸て布美多祁
剣を伊都
踏建沸て布美多祁
剣を折て立
立の弗名
元紀者も沸書ふ
而るの印
弗名式よ
祝荷国宗像宗像弗仕立
神之其中市杵嶋比賣命ハ安蘇国佐伯部伊都伎

塩神社と云又うぶすなの意我島神の生給ひし所
須麻流の郡を左方の掌と賀と足とに垂て生給
ひし所を左方の掌小蛭と生給ひしを天て
生給ひ而五柱を以て六柱を以て其名を沼矛を沼書
うんと而をのゝ命国あり 舊事紀ニ云ハ今云ふ也古事紀日本紀ニ
いはゆる速日命ハ兄也 但し日本紀ニハ一書ニ云ふ六柱を以て五柱を以て
御事 押穂耳 忍穂耳尊の
勝速日命と天吾勝尊とを忍穂根と忍骨とを
此尊をば天照大神特甚愛して尊ふ御孫の子に
懐きのみ故ふ私して授子とせんと 其注ハ後
よ雅るを私して和可ふ子
とうふ性也と云ふ
天之穂日命ハ天之菩早能命なり
天菩比命と云ふ 出雲臣土師連等ハ祖也 即是菅家の祖

伸也 天津彦根命ハ河内直山
城直等の祖なりと云ふ 紀野忌隅命も紀野大隅命も紀野
櫛棲日命も紀野又傾是命も云ふ
按ずるに天照大神素戔嗚神誓約して各男
女の神を生給ひしと云ふ又上古の俗言嗣
しかして盡信ずるなり素戔嗚神高
神の宮を逐ひ高天原の宮を根し追退給ひ
しかりてこの御子を質として天照大神
より元質子なりて元危難をなくなんと云ふ言天
原小屋を立給ひ事をかくいと嗣しるべ又姉
命を天に上せ給ひて我らに思ひ給ひしと云ひ天倫
に情なしと誠に我ひ事と云ふ二柱の女神いづれの神の
子なりと質子として如何古なりと云ふ

さしぢ洋なる

素戔嗚尊五十猛命を率きゐて新羅國に降り曾尼
ふ居られし事を聞かれ給ふ出雲國簸之川上なる峰
ふ降りて言給ふ此の八岐大蛇を斬棄て我が地ふ居
國神の子櫛名田比賣を娶て妃とし八島土奴美神を
生給ふ後ふ熊成峯に昇給ひて根國ふ入給ふ
紀古事記ふ云ふ

五十猛命又ハ大屋彦神と云ふ舊事紀ふ此神を
云ふ一説ふ素戔嗚尊と云ふ
八十種子命ふ云ふ樹種を播て稚地ふ殖給ふ
是ふ於て持渡て天降り大屋姫命と抓津姫命と三
柱の神を筑紫より始て大八洲ふ殖播給ふ

ふ而ふ紀伊國ふ坐ス神ふ
青山と云ふ紀伊國ふ坐ス神ふ
と云ふ素戔嗚尊ふ五十猛を伊曾
と云ふ素戔嗚尊ふ五十猛を伊曾
多毛比命と云ふ
伊曾多毛比命ハ伊佐奴伎命ふ
天降ふ坐ス神也
伊太祁曾神社 大屋彦神社 抓津姫神社 紀貴神社
社ふ名神大社ふ列ス
五十猛神也 ○按ふ五十猛命ハ伊太祁曾ハ
伊國の伊太祁曾神社 紀伊國名草郡 式内大社 紀伊國伊太祁曾神社
イタケイタテイタキ 此一ツの神也
中略 地即今朝鮮東南之地也 素戔嗚尊
ハ新羅ふ降給ふ事紀ふ
紀ふ記ふ而天文特ふ長し其大要を撮て
ふ注ス 初素戔嗚尊新羅曾尸茂梨ふ

に坐りて泣く此れ我が居らむ事を欲へず速やかに
泣て所を作り事なして東に渡りて出雲の国熊の河
上なる上流に到りぬ　首尾の長さ八谷八峰を
渡りて目は赤かがちの如し　身に苔と檜と杉
とを生ず　其の長さ八谷八峰を渡りて腹を
見れば常に血爛れたり　言志の出雲国の肥の川
伊弉諾尊の子孫　大国主の神　出雲国の肥の川
上に坐す　其河上より流れ下る　櫛名田比賣
て孫賀上より流れ下る　櫛名田比賣
足名椎と手名椎と　稲田比賣
稲田比賣と　名田比賣
櫛名田比賣
稲田比賣
稲田比賣
稲

り神さまいかしこみ恐まうしたまふ事なれば湯津
津間櫛に成して御髪に挿のぼせ父母の神に授て
八塩折の酒を醸し又垣を結て其垣に八つの門を作
り毎門に八つの佐久佐を結いその佐久佐に酒船
を置て酒を盛りて待つ時に八岐大蛇来りて各
一口に飲て醉て伏寝す湯津津間櫛挿る稲とは
是なり櫛名田比賣又久志伊奈太伎比咩と
申す事なり又元来我国の人の酒八塩折の酒
を醸すべきことなり酒は古老の伝に酒を醸成して其酒を
絞て糟を去て清き更に元酒を醸すなり今世
に酒を醸すなり
厚酒を造て初穂を捧げ
日本紀に今俗に稲穂祭
八槽を設て塩門俗祭
あり
閑居く盛宴を設て
て八岐大蛇に
を呑れ
を
素戔嗚尊常世の
国に
嗚川無
沖縄の
日本紀異物
大蛇の
流れ
名
名
石上
石上
石上
櫛
日本紀
又名
名
今
今
又
古伝
古伝
古伝

草薙ノ古説ヲ用ヒズシテ偽書ノ風土記ヲ採用スルヿイカヽ焼鎌ヲ敏鎌ト改ム打撃ト大祓詞ニアルヲ草薙ノ語釋ニシタルナリ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

出雲國風土記ニハ此國ヲ名づけて八束水臣津野命と云ふ
とのたまひ[illegible]八束水臣津野命ハ雲ヲ
[illegible]の書物ニハ又出雲ノ八重垣とのたまひ[illegible]大己貴命
[illegible]ハ[illegible]の事ハ[illegible]須賀ニ記のあ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

元勝摩乳命を喚く汝い我高く首ヨ任ル化
のたまひ又名を負て稲田宮主須佐之八耳命と名づ
旧事紀ニハ稲田姫を妃として八洲士奴美命をもうけて吾児宮首
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
摩乳の妻の名ハ稲田宮主簀狭之
心箇耳と[illegible]
[illegible]

元妃奇稲田姫生る所の
御子の名ハ八洲士奴美命と申す又大山津見命と女大
市姫を娶て大年命稚倉魂命等ノ種を生る八洲
士奴美命のすい[illegible]大山津見命の子に[illegible]大年命
ハ大和國[illegible]大國御魂命ハ父すいさのを稲倉魂命

旧事紀ニハ宇迦御魂命と云ふ
[illegible]
元後素戔嗚命熊成峯ニ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ら出ふ事を名ハ八つふ如きるべしら
ぐ　古事記ハ八幡大神ハ美神のお布波神母逢久須須
知神此神を御祖御祖之小椋禮花神此神の子御美
豆神此神の子天之冬衣神此神之子大國主神
又の名ハ大穴年麻迦神と申ス第弟之神男神と申ス八子
有神を宇都志國玉神と申て兄弟五人有ると
きこゆ　さて大巳貴神ハ素戔嗚神ハ六世の孫にて
しかるに　新撰姓氏録ハ大巳貴
神ハ素戔嗚神六世の孫ると申ス　記ハ
素戔嗚神ハ寄稲田姫を娶して生の子ハ有の神子
大巳貴神と云ふ　又云ふ稲田姫生ると云
清之湯山主名狭漏彦八縫命と云

旧事記ハ注ると云ふ
家度毎て十二名ハ
母逢久須須

繋名坂狭彦八縫命と云ふ　又ハ清之湯山主名狭漏
彦八縫命と申ス此神ハ五世の孫ハ即大國主神と
と云ふ　古語拾遺ハ云ふ　大巳貴神を以て
素戔嗚神の御子と云ふ　元来ハ和名抄ハ
ハ上古の事を徴とすべきものなり　かくの
ごとし　但し旧事記ハ大物主大國玉
神子を大巳貴神と云ふ　日本紀ハ大物主大國玉
と云ふ　此事記ハ素戔嗚神の御子大年神演泥
神の女伊怒姫を娶て生ル所の子ハ大國御魂神
大和の神と云ふ　又云ふ
那大和ハ葛上大國魂の神と云ふ　即此也　大物主
神名事ハ多の後ハ云ふ

元後大己貴神少彦名命二柱の神葦原中
國の水母浮漂る時に相並に出國を作り
其少彦名神は遂に常世國に渡りぬ國中いまだ
成らざる所をば大己貴神猶独り巡造りぬ 旧事紀

古事記

大己貴神は前に詳に少彦名命は旧事紀に出雲
は神皇産霊尊の御子と聞えて天神なれ上に
高皇産霊尊曾聞く吾兄也とのたまひし
又云ふ古事記に神産巣日の御子の名也
神と云ふ事也 日本紀古注抜遺に高皇産霊
の御子なりと云ふ事不審中国は水母漂
い程なく多端用幣流る国とあるを国いまだ
定まらずして水母の如くなるを云ふ初伊
弉諾伊弉冊の子に産まれしの後出雲又北
国なれば大己貴少彦名の神北国産
出る舊事紀日本紀等に天下大
要をなす事なれば大己貴神出雲御崎に
坐せし時海藻を天之羅摩船に寄て駕鷄の
皮を内剥く衣服とし蒙る神あり其名を問
に答て云ふ我は久延毘古なるぞと云ふ久延
毘古は何人ぞと問に神産巣日の御子
少名毘古那神也と申す神産巣日の御祖
神か中上に御子実に我子也の中に我子

草皮鳥皮ミナ短ク
ノ長サミヨルトイヘルナリ
サ考名ノ少ヨリ大モ
ヒヨルナリ

傳ふる久保彩子也阪菅系毛汗男命と兄弟と
うして天國を作り果てゝ常世国に行き給ひ
国治根耶美保湾ゆ羅摩船に乗て出雲国五十猛ゝ小汀ゆ
する心ひられ天之羅摩船い其船ゆ小しきりをつかるゝ
日本紀ゆい白蘞皮を以て船とし羅摩白蘞皮を羅摩
名づけ和名抄ゆ羅摩ゆい白蘞皮ゆて加賀美と云ふ
美ゆ羅摩ゆ船と羽ゆて衣とし
駱駝ゆ多の名ゆ日本紀ゆい駱駝ゆ
と云ふ草皮を金く剥ぎ取り多ゆを衣とし
毛ゆ北狄の名を金く剥ぎ取り多ゆを衣とし
時迫且久い洋ゆ久西ゆい旧事古事紀ゆ今ゆ
田之首富騰と云ふ者ゆ天下の事をこゝく知
る神と云ふ者ゆ
さてゝ上古之時ゆ
天下の事をこゝく知
毛傳ゆ旧事紀ゆ格多ゆ海
毛ゆ旧事紀ゆ格多ゆ海
毛ゆ大己貴神と毛汗男と云ふ醜女ゆ
北狄のかゝゆ毛汗男と云ふ醜女ゆ
かゝて大己貴神少彦名神と力を勢を合せ
て天下を経営ゆい又顕見蒼生と高彦の之記ゆ

為其療病之方を定又鳥獸昆蟲之害を攘
ふ之ゆ天下ゆ厥之恩を定を与ふ之ゆて百姓
今ゆ之ゆ之ゆて
顕見の字ゆ
経営の字ゆ造の字
高彦ゆ牛馬の
療病の方ゆ医薬の方
恩ゆ
其後少彦名神ゆ
又淡島ゆ
常世国ゆ
又淡島ゆ
常世郷ゆ
粟茎ゆ弾き
粟ゆ
粟ゆ
伯耆の国ゆ
西北の海
粟ゆ深
常世国ゆ
常世郷ゆ
常陸国
大洗磯前ゆ
大奈母知命
少彦名
造化して東海ゆ

式[illegible]常陸国茨城郡大洗磯前神社此也[illegible]北神社
[illegible]ふいてふ[illegible]我国東海の地ふかし而の国也[illegible]
[illegible]ふ[illegible]神名式国土記ふ[illegible]神社かく大己貴神
我獨いふ[illegible]北国を造[illegible]
う我[illegible]北国を相[illegible]
[illegible]
作り成さんと[illegible]
海[illegible]
[illegible]
[illegible]